

巖柱一名花仙事物仙客仙客便覽仙友同上山友事物天闕清香巖山圭木同上狀元花法名物言

天香尺雙魚七里香園書鳳尾共同九里香園史南金粟品字檜花通識

〔地錦抄五〕桂心けいしんにつけいとば葉形各別なり香味も異有

〔廣益國產考七〕肉桂を仕立る事

肉桂を仕立るには先實の生を調一粒づゝ實をむくべし指にてむきては爪はれ痛めば木綿切につゝみてむくべし扱先砂眞土まことつちの肥地を畦づらつくりして綿より少しうすく蒔べし蒔肥しは綿と同様にてよし貳寸計り生出たる時根を貳寸程よけて油糟を粉にして施べし三寸にも伸なばまげりたる處は間引別畑に間二寸程置植かへ日覆すべし然して土用前に干鰯ほしかか綿實かすにても施べし然すれば十月頃には七八寸一尺にも伸べし霜月始頃みなこぎあげ別畑に畦をつくり斜にまげく植て霜覆ひをすべし

春三月上旬にこぎあげ畦に二行に間四五寸置植て初年の通りに肥しを施し育れば三四尺に伸べし其年暖國ならば上に霜覆するにおよばず寒國ならば初年の通り覆ひをすべし然して翌春本植すべし

植場所は遠方にすべからず我家に近き所の藪抔起して植れば成長早し幾年も置ものなれば随分不毛の地を開きて植べし

植る地面は一圓に畑のごとくならして一間半程間置植べし木の成長せざるうちはいろいろのものは作れども植たる木の根は四尺四方には何にても作るべからず作れば必其木成長せずしてかじけるもの也本植して肥しは餘り行届かぬものなれども年々ごもくやうのものを根に入又厩ごえ埋れば生立よろし是を掘事は七八年十年位にて根よりほり楊枝を伐皮をむき桂枝とし木の皮は肉桂とし根皮は取分藥種屋に賣べし